

スイート・チャリティ (1968)

SWEET CHARITY

メディア 映画

ジャンル ミュージカル

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 147分

初公開日 1969/05/17

公開情報 U N I

【解説】

元気一杯、マクレーンの魅力弾けるミュージカル大作で、名振付師フォッシーの映像への意欲が過剰なまでに溢れた、60年代後半の都会風俗絵巻としても楽しめる快作だ。原作はフェリーニの「カピリアの夜」だが、フォッシーは後の「オール・ザット・ジャズ」に見られるような、巨匠のもう一つの側面――「81/2」等の映像の魔術師ぶりへの傾倒を隠さない。

ダンスホールのホステスのチャリティはぞっこん惚れて腕に刺青まで入れたチャーリーにセントラルパークの池に突き落とされるという醜い形で逃げられても、仲間には彼を良く言う、お人好し。恋人と喧嘩したイタリア映画の大スター、ヴィターレ（モンタルバン好演）に拾われ夢のような一夜を過ごすも、結局は夜半の恋人の襲来でクローゼットで朝を迎え、それでも彼のサイン入り写真とシルクハットとステッキを貰いご満悦なのだ（彼に連れられ入る秘密クラブでのメンバーが今観てもなかなかヒップ）。しかし、自分の商売にはずっと自信がなく、ある日勇を奮って訪れた職業紹介所で、“小学校卒”を冗談と思われすごく帰ると、エレベーターが故障し、閉所恐怖症の男と二人きり閉じ込められ、親しくなる。このオスカーと名乗る保険会社の計算係は超マジメ人間で彼女を銀行員と思い込み、デートを重ねる（S・デイヴィス・Jr扮する教祖の新興宗教の集会に参加する場面がサイケですごい）うち、結婚を切り出す。彼女はいつの間にか正体を知られてしまうが、それでもいいと言うオスカー。二人はチャリティの職場の盛大な祝福を受けるが、結局、オスカーは彼女の過去の男関係を気にし、破談に。それでも仲間には嘘のハネムーンの報告をするチャリティは、町にたむろするヒッピーの若者たちの“ラブ”のピースサインに笑顔で答えるのだった。舞台版（脚本N・サイモン）もフォッシーが演出を手がけた“愛されたかった女の子の冒険”譚。スチル構成で見せる所など、なかなか斬新だった。

【クレジット】

監督	ボブ・フォッシー	Bob Fosse
製作	ロバート・アーサー	Robert Arthur
原作	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini
	エンニオ・フライアーノ	Ennio Flaiano
	トゥリオ・ピネッリ	Tullio Pinelli
脚本	ピーター・ストーン	Peter Stone
	ニール・サイモン	Neil Simon
撮影	ロバート・サーティース	Robert Surtees
美術	アレクサンダー・ゴリツェン	Alexander Golitzen
	ジョージ・C・ウェブ	George C. Webb
衣装デザイン	イーディス・ヘッド	Edith Head
編集	スチュアート・ギルモア	Stuart Gilmore
音楽	サイ・コールマン	Cy Coleman
舞台装置	ジャック・D・ムーア	Jack D. Moore

出演	シャーリー・マクレーン	Shirley MacLaine	チャリティ・ホープ・ヴァレンタイン
	ジョン・マクマーティン	John McMartin	オスカー・リンドクィスト
	リカルド・モンタルバン	Ricardo Montalban	ヴィットリオ・ヴィダル
	チタ・リヴェラ	Chita Rivera	ニッキー
	サミー・デイヴィス・J r	Sammy Davis Jr.	ビッグ・ダディ・ブルベック
	バーバラ・ブーシェ	Barbara Bouchet	ウルスラ
	ポーラ・ケリー	Paula Kelly	ヘレン
	スタビー・ケイ	Stubby Kaye	ハーマン
	スザンヌ・チャーニー	Suzanne Charny	
	ベン・ヴェリー	Ben Vereen	
	バッド・コート	Bud Cort	
	クリストファー・タボリ	Kristoffer Tabori	